

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 環境創造センター

所 管 課 生活環境部環境共生課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		評価時までの進捗状況	内外の状況変化	成果の見通し	1次評価	2次評価			
1	環境回復	研究開発事業 (環境動態)	放射性核種の環境中における移行挙動の実態把握及び将来予測に関する研究	H27	R6	56,954	B	B	B		B	B	安心安全に資するためのデータ収集や周知については継続が必要と考えるが、モデルの広範囲な適用の検討に加え、社会情勢や突発的事象への対応及び放射性物質のみにとられない派生的な成果を見通した研究を実施すべきである。	貴重な長期データを得ていることは高く評価される。今後しっかり減少していくのか、それとも定常状況となるのかを調べることは福島復興のためにも重要である。一方で、出水の影響については、事例研究はでているのですが、その一般化に向けた取り組みも必要。例えば出水時の状況等事例は示されているものの、それより大きい出水の時にはどうなるのか?等これまでのデータのとりまとめ、解析することも求められる。
2	環境回復	研究開発事業 (環境創造)	猪苗代湖の水環境に関する研究	H27	R6	72,124	B	B	B		B	B	継続的な基礎データの収集の上、水質予測モデルの改良や水質浄化実証試験の実施等、進められているが、COD上昇等の水質悪化の総合的な原因解明や水質改善に向けた効果的な方法の提示、増加する水生植物の対策等、引き続き、取り組むべき課題がある。	水質データの継続的なデータ収集は、まずは重要である。一方で水質評価モデルについては、具体的なパラメータの精緻化、他のモデルとの比較等、原点に戻った取り組みも必要であろう。また、植生浄化法を用いた水質浄化実証試験については、流出量負荷等をしっかり議論して、コストと効果についても、他の浄化方法と併せて議論する必要がある。

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ
所 管 課 産業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		評価時までの進捗状況	内外の状況変化	成果の見通し	1次評価	2次評価			
1	地域の企業における技術力・開発力の強化に向けた支援	福島県オリジナル清酒製造技術の開発	適切な上槽時期の判断による県産酒の高品質化	R2	R4	54,989	A	A	A		A	A	オフフレーバーの発生を抑制する新たな管理指標の成果を移転することで県産酒の長期流通と品質向上がはかられ、県産酒の販売量が増加し、清酒業の活性化が期待できる。	清酒のオフフレーバー物質であるジアセチルやDMTS、脂肪酸臭は、閾値も低く、少量でも不快臭を発生される。そのため、清酒醪(もろみ)の管理は難しい。この問題を解決するために上槽のタイミングは非常に重要である。そこで、当該研究者らはもろみ管理の指標を設定することに成功した。これにより県産酒の流通拡大や品質向上に貢献できていると考えられる。さらに、本結果は論文としてまとめられており、学術的にも評価できる。
2	福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業集積・振興	チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業	3次元金属積層によるアルミ合金構造体の機械的特性に関する研究	R3	R4	10,175	A	A	A		A	A	予定どおりの成果を得られている。また県内企業等の関心も高い。最終年度でもあり、早期実用化のためにも優先して継続すべきである。	かなり特殊な技術であり、先進性・優位性が高いと思う。本技術を積極的にアピールし、県内企業等に展開し、特殊な構造を必要とする業界を先導する企業を育てて欲しい。アピール性が高い試作品(本技術以外では作製困難で、目を引くもの)の作製と、県内幅広く知ってもらい取り組みが必要と思う。広報部門の活躍も期待したい。
3	再生可能エネルギー・水素関連産業の育成・集積	福島新エネ社会構想等推進技術開発事業	高圧水素タンクの充填時検査技術の開発	R3	R5	51,787	A	A	A		A	A	画像処理によるき裂検知およびき裂進展速度データ収集について、当初計画通りに研究が進行している。また、水素脆化の評価に関して必要性が高まっている。	グリーン水素が主力エネルギーとなる将来に向けて、水素関連設備の安全確保は重要である。本研究は、安全性・信頼性の向上に資するものと思う。水素製造・輸送・貯蔵・充填(使用)の全体を視野に入れながら、(テーマの拡大も含め)継続して取り組んで欲しい。県民に幅広く水素社会を語る事ができる「水素社会の牽引者」が、ハイテクプラザに育つことも期待したい。
4	地域の企業における技術力・開発力の強化に向けた支援	ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業	AIを活用した人とロボットの協働による工場のスマート化支援	R3	R5	44,108	A	A	A		A	A	社会的な関心が高く企業からの具体的な要望もあり、直接的なニーズがある研究課題である。迅速な支援、早期の実用化のためにも、優先して継続すべきである。	県内企業の製造力を高めるテーマであり、技術的完成度も高くなっているため、積極的に進めて、実装すべきと考える。ロボット活用の先進県としての誇りを持つため、幅広い業種に本技術の適用先を広げるため、積極的な広報が必要と思う。(複雑で危険な作業をロボットが行う現場の映像や、ロボットが子供とパズルで競う映像を、私はTVで見たいです。)

5	地域の企業における技術力・開発力の強化に向けた支援	基盤技術開発支援事業	漆塗料の高機能化とその活用に関する研究	R3	R5	1,457	A	A	A		A	A	<p>研究の成果に高い期待が寄せられている。県内における、普段使いの漆器の活用が増加すると考えられ、積極的に継続すべきである。</p> <p>伝統的な製造方法に新しい視点が付加され、漆器のニーズの幅を広げるテーマであり、積極的に継続すべきと考える。商品価値は漆の機能のみでは決まらないため、市場調査なども行い、研究と並行して商品企画をする必要があると思う。県内企業や関連部署との密な連携をお願いしたい。</p>
---	---------------------------	------------	---------------------	----	----	-------	---	---	---	--	---	---	---

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター

所 管 課 森林計画課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		外部アドバイザーコメント	
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		評価時までの進捗状況	内外の状況変化	成果の見通し	1次評価	2次評価	部局コメント		
1	農林水産業の再生と安全・安心な農林水産物の提供	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	少花粉スギ種苗の増産技術の開発	R1	R5	2,000	B	B	B		B	B	増産技術について成果が得られつつあり、また少花粉スギの需要は継続してあることから、来年度も継続されるべきである。	少花粉スギ種苗の社会的ニーズは大きいと考えられることから、重要性の高い研究である。コンテナ苗の増産技術に関しては、植栽までの期間、生産コストについて従来のコンテナ苗との比較検討が必要であろう。種子生産に関しては交雑を防ぐための開花時期操作を実施し一定の成果が得られたと思うが、種子の品質について、引き続き検討が必要である。
2	林業・木材産業の振興	県産農林産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進	広葉樹の増殖に関する研究	R1	R5	2,960	B	B	B		B	B	有用広葉樹のクロモジは需要の拡大が期待され、南会津地域からの要望も継続してある。山取のクロモジ資源についても持続可能な採取が求められていることから、来年度も継続されるべきである。	精油採取のためのクロモジ利用について苗木生産とともに、種子生産や伐採試験が行われており、継続して研究を続けることが必要と考える。これらの成果が確認されるには長期の試験体制が必要であるため、今後資源の持続可能な利用体制を確立するためにはどれくらいの期間の調査設定が必要かについても検討してほしい。
3	新時代に対応した活力ある産業の育成(研究開発の促進)	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	キリ栽培省力化に関する研究	R2	R6	12,899	B	B	B		B	B	計画のとおり試験研究が進捗しており、玉植苗の育苗のさらなる改良や栽培管理の省力化が期待されるため、継続して試験研究を行うべきである。	「玉植苗」という福島県の独自技術を改善するための研究であり、重要性も高い。省力化の効果については従来の育苗や栽培と比較してどの程度の有利性があるのかを説明できるようになるとよい。森林での除草剤散布については反対意見が出ることも予想されることから、しっかりとリスクを説明する体制を整備することが望ましい。
4	自然・環境と共生する農林水産業の推進	地球温暖化に対応するための技術確立	木質系廃棄物の利用に関する研究	R2	R6	8,500	B	B	B		B	B	遊歩道や駐車場の敷材として性能を確認し、製品化の目途が立てば、産廃処理されているパークの新たな活用に繋がり、研究成果として一定の役割を果たすことができると考えられる。	原発事故の影響で利用が低下した本県産のパークの活用を研究するものであり、重要性が高い。セメント混入資材としての性能、用途が検討されており。一定のマーケットが期待できることが明らかにされた。今後はそのような資材としての流通量を推定するとともに、それでも未利用資源として残るようであれば、他の用途についての検討が必要であろう。